

東北復興 PSW にゆうす

新しい年を迎えました。新体制となった東日本大震災復興支援委員会は、今年も構成員の皆さまや東北の福祉事業所の皆さまへ、東北の「今」をお届けしていきます。この通信や復興支“縁”ツアーなどを通して、これまでのご縁や新たなご縁を繋いでいけますように！本年もよろしくお願ひ申し上げます。



「福島県キャラクター キビタンファミリー」

復興支“縁”ツアー2019inふくしま

新年あけましておめでとうございます。

さて、新年早々ですが、「復興支“縁”ツアー」のご案内をさせていただきます。

本年2019年は福島県での開催です。ご存知の通り、昨年の世相を表現する漢字に「災」が選定されました。全国各地で災害が頻発。いつ、どこで災害が起こっても、自分が被災しても不思議ではありません。では、あの東日本大震災が意味するものは何なのでしょう…。

43,214人：東日本大震災に伴い、県内外へ避難している福島県民の数です。

2,259人：福島県における震災関連死の数です（直接死は1,605人）。

99人：震災に関連する自殺者数です（岩手県は48人、宮城県は53人）。

新年から重苦しい話題ですが、これも一つの、そして現在進行形の現実です。

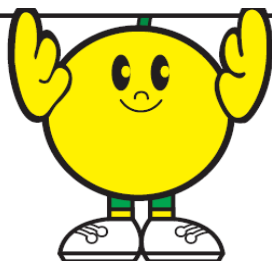
ここに何を想い、どう行動するのか。私たち一人ひとりに問われている命題だと感じています。

その一方、被災の影響で過疎化が一気に進んだ地域においては確かな展開や活動もあります。

気軽に立ち寄れる居場所。若者の働く場。子ども学習支援。それらを提供するのは住民、住職、専門職など。

いずれも手弁当で、必要に応じた活動は、地域包括ケアや地域共生社会そのものです。その実情を踏まえ、今回は被災地におけるメンタルヘルスに広く着目し「頑張っている人の力を結集して共有しよう」をキーワードに、

申し込み方法は別紙をご覧ください。
2月8日（金）17時^前切です。



初日は、①バスの中で移動講演会、②自主避難所にもなった場所（浪江町）でのシンポジウム、③当地支援者との懇親会を、そして、二日目は、「避難すれば患者が亡くなってしまう」と避難せずに現地の医療を支え続けた高野病院（広野町）に会場を移し、④同院理事長の講演とグループワークを予定しています。現在だからその貴重な機会、貴重な話を聴けることは間違いありません。

今年の干支は「亥」。無病息災の象徴ですが、「勇気と冒険」も干支の特徴だそうです。復興半ばの地域。十分な設備もないなかでの開催になりますが、干支にならぬ、この機会に是非、足を運んでいただければ幸いです。

一同、心よりお待ちしております。



★確認しておこう★

前号に続き、いざという時に備えてロゴマークを確認しましょう。
今回は「津波関連マーク」3種類をご紹介します。
自分達の地域以外にも、外出先や遠出先での表示を意識してみましょう。



マスコット「えんが〜る」

呼称	ロゴ	意味
津波注意		地震が起きた場合、津波が襲来する危険性のある地域を指します。
津波避難場所		津波が押し寄せてきた時の安全な避難場所＝「高台」を指します。
津波避難ビル		周りに高台が無い場合に利用する、津波から避難できる高さ・耐性を有するビルを示しています。 津波避難タワーや水害時避難ビルにも表示されます。

※引用：内閣府 防災情報のページ「防災標識ガイドブック」「地震・津波対策」より引用

東日本大震災 避難者の今

復興庁によると、2018（平成30）年11月12日現在、全国の避難者数は約5万4千人で、全国47都道府県1,007市区町村の応急仮設住宅及び賃貸住宅、親族知人宅、そして病院等へ避難されています。

また、自県外への避難者数は福島県から33,147人、宮城県から4,292人、岩手県から1,064人となっています。

各地、各団体などによる県外避難者支援も続いています。引き続き、県外避難者の支援の取り組みなどもお伝えしていきたいと思えます。

支援に携わっておられる構成員の皆さまからのご意見や、取り組みのご紹介もぜひお寄せください。

編集担当のつぶやき

秋深まる会津へ里帰りしてきました。

実家の前の運動公園では、大熊町の方が避難されていた仮設住宅はすっかり撤去されていました。しかし、モニタリングポストは原発災害の痕跡を強く残し、今日も福島県内の空間放射線量をモニターしています。

浪江町民の皆さんによる原告団の訴訟ニュースが届きました。神奈川県での避難者茶話会で出会った浪江町の方々は今どうしているかな、と顔を思い浮かべます。

神奈川県の構成員の有志での福島旅行も恒例になりました。

続いていく福島を、どう発信していけるかな、と模索しています。

（三瓶英美/神奈川県支部）

実家の近所の
モニタリングポスト



【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。

FAXもしくはE-mail: office@japsw.or.jpで皆さまのお声をお聞かせください。

★題名に「PSWにゆうすについて」とご記入ください★

第38号 2019年1月15日発行

編集：東日本大震災復興支援委員会

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F

TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL: <http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト

<http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>